

# 東邦大 佐倉だより



Vol. 15 2012, 1, 1

東邦大学医療センター佐倉病院  
発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局  
〒285-8741  
千葉県佐倉市下志津564番地1  
TEL 043-462-8811(代)  
FAX 043-462-8820(代)  
URL <http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

## 基本 理念

医療の目的  
質の高い医療を安全に提供する病院  
病診(病)連携  
地域に貢献する病院  
教職員のあり方  
人間愛を共有する病院  
職場環境  
楽しく明るくチャレンジする病院  
生涯教育  
良き医療人を育成する病院

## 患者 の 権利

質の高い公正な医療が受けられます  
個人の尊厳が守られます  
個人のプライバシーが保障されます  
必要な医療情報の説明が受けられます  
セカンドオピニオンが保障されています  
医療行為について自己選択ができます



## 新年のご挨拶

病院長 田上 恵

### Topics News

新年のご挨拶/病院長 田上 恵

#### 新任教員の紹介

■糖尿病内分泌代謝センター/龍野一郎

医療連携だより 第1回東邦大学医療センター佐倉病院医療連携学術フォーラム開催のご案内/呼吸器内科「紹介患者事前診療予約制」導入のご案内

市民公開講座 ■『もの忘れ(認知症)と共に歩む「診断と治療」』 ■『知っておきたい加齢に伴う眼の病気』

新年明けましておめでとうございます。皆様方とともに新しい年を迎えられた幸せに感謝しております。

昨年の大震災の衝撃は私達日本人の脳裏に深く刻み込まれました。人は自然とともにあり自然に生かされている、「自然・生命・人間」の東邦大学の学祖の言葉に改めて深い感動を覚えました。混乱の中にありながらも礼を失することなく他者を思いやり譲りあう日本人の姿が世界で注目されました。この、人としての有様こそが医療の原点であります。今は「震災前」と「震災後」に分けられる、価値観を含めた時代の転換期と言われています。その時代に生きることになった私達には未知の試練が待ち受けていると思われま

す。しかしどんな状況の中にあっても「人として」その真心と誇りを持って、各々が自らの役割をしっかりと果たしていくことが肝要であり、私達医療人にとってそれを医療の現場とともに実現できることは大きな喜びと感謝しています。

佐倉病院にとって大きなイベントとして昨年9月に開院20周年記念がありました。大きく発展することができましたのも多くの皆様方に支えられてのことと深く感謝しております。

今年は2月4日に炭山理事長をお招きし、「第1回東邦大学医療センター佐倉病院医療連携学術フォーラム」を開催いたします。これまで地元医師会と「顔のみえる医療連携」をめざし、佐倉病院に所属する全医師と佐倉地区医師会に所属する全

開業医師の顔写真入りの連携インデックスを作りましたが、若い医師同志はあまり会う期間もなく、さらに一歩進んでお互いに顔を合わせて話をする機会をつくりたいの思いから、新年の名刺交換会を兼ねて開催させていただきます。

平成24年度に入ってから、救急センターの拡張が計画されています。現在は、年間約3,500台の救急車の受け入れを行っていますが、1,000台を超える救急車を断らざるえない状況です。その理由の一つに、処置室が一つしかないことがありました。そのために処置室の増設を含めた拡張をいたします。

また、循環器センターの充実が今年の大きな課題になっています。心臓カテーテルの増加、インターベーションの増加、不整脈治療の充実、心臓手術の増加をめざし各部署の協力体制を構築しています。

外来患者数が1日1,500人を超えるようになり、患者さんの待ち時間短縮のために、自動精算機を設置するとともに、医療機関からの初診紹介患者の予約受付を一部の科から暫時開始しました。また、引き続き紹介率、逆紹介率の向上に努めていきます。

今後とも「医療の町・佐倉」を創設するために教職員が一丸となり、地域の皆様と一体となった病院をめざしてまいります。



## 新任教員の紹介



### 教授就任のご挨拶 及び糖尿病内分泌代謝センターのご紹介

糖尿病内分泌代謝センター 教授 龍野 一郎



平成 23 年 8 月 1 日付けで千葉大学医学部附属病院 糖尿病代謝内分泌内科から東邦大学医療センター佐倉病院 糖尿病内分泌代謝センター 教授として赴任いたしました。私は 1982 年に千葉大学を卒業、糖尿病内分泌代謝学

の幅広い分野で臨床・研究・教育に従事してまいりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は大学病院に求められる診療とは“一般医療機関が担うことのできない先端・高度統合医療と希少疾患専門診療の実践”および“人材育成と診療連携を介した地域医療への貢献”と考えており、この理念の基に糖尿病内分泌代謝センターでは 糖尿病・脂質異常症・メタボリック症候群といった生活習慣病に関連する代謝性疾患から、巨人症・小人症といった間脳下垂体疾患、バセドウ病・橋本病といった甲状腺疾患、骨代謝性疾患、原発性アルドステロン症・クッシング症候群といった副腎疾患、性腺機能障害など内分泌代謝にかかわる疾患の診療にあたっています。

糖尿病診療では、糖尿病がすでに普通によく遭遇する疾患として一般医療機関で多くの患者様が診療を受けており、大学病院の果たすべき役割は血糖のコントロールを超えた心血管障害・眼症・腎症に代表される糖尿病合併症の予防・治療に焦点をあてた総合診療が必要であり、そのために地域医療機関と連携した全人的な診療を目指し、加えてがん治療など大学病院の高度先端医療の現場での糖尿病合併患者の診療支援が極めて重要と考え診療を行っています。

更に、佐倉病院は長年に渡り糖尿病やメタボリック症候群の根幹にある肥満症の治療・研究に取り組み、精神神経科と連携した中枢高次機能への解析・行動介入、全人的な栄養療法・運動療法の実施、更には飢餓療法・肥満外科治療など先端かつ統合的な肥満症の研究・診療が推進され、国内屈指の肥満治療センターとして、特に重症肥満の患者様が全国から診療においてなっています。

また内分泌分野では下垂体腫瘍に代表される視床下部下垂体疾患・性腺疾患など希少疾患から、二次性高血圧の原因である副腎アルドステロン産生腫瘍やバセドウ病をはじめとする甲状腺疾患のように頻度の高い疾患もあり、その守備範囲は広く、豊富な臨床経験と高度専門診療が特徴です。東邦佐倉病院では甲状腺疾患では経験豊富な専門医がバセドウ病・橋本病だけでなく甲状腺エコー下細胞診などを駆使して微小甲状腺がんの診断や治療にもあたっています。また、副腎疾患では高血圧症に隠れている原発性アルドステロン症の診断と治療のために内分泌性高血圧外来を設置し、クリニカルパスを用いて副腎静脈サンプリング入院を実施し、当院泌尿器科で内視鏡手術で治療を行っております。加えて、痛風・高尿酸血症については県内でも数少ない“痛風協力医療機関”の一つとして専門性の高い診療を提供しております。また、近年高齢化人口の増加に伴って大きな問題となっている骨粗鬆症領域においては地域行政とも協力して閉経後婦人の骨粗鬆症コホート研究も進めております。

現在、千葉県内では私どもの様に糖尿病内分泌代謝性領域において高度な専門診療を提供できる施設は少なく、地域の皆様に信頼いただける国内屈指の糖尿病内分泌代謝センターの構築を目指して、日々診療に励んでおります。更に院内に留まらず、積極的に社会に向かって情報を発信し地域社会の健康の保持・増進に貢献して行く所存ですので、引き続き皆様のご指導・ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



糖尿病内分泌代謝センター スタッフ

# 医療連携たより



## 第1回東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携学術フォーラム開催のご案内

この度、私ども東邦大学医療センター佐倉病院は従来開催していた医療連携フォーラムを拡大し『第1回東邦大学医療センター佐倉病院医療連携学術フォーラム』を開催させていただくこととなりました。日頃よりお世話になっている地域の先生方・医療関係者の皆様をお招きし、感謝の意を表すとともに、より一層の親睦を深める場とさせて頂きたいと考えております。

ご出席を希望される方は、1月中旬に医療連携・患者支援センターまでご連絡下さいますようお願い申し上げます。

### 日時

平成24年2月4日（土曜日）午後5時～

### 場所

ウイシュトンホテル・ユーカリ

### 問い合わせ先

東邦大学医療センター佐倉病院  
医療連携・患者支援センター  
TEL. 043-462-8770

### プログラム

#### 第1部 講演会 午後5時～

##### ●講演1 『医療連携』

「大腿骨頸部骨折地域連携パスの有用性と将来展望」  
東邦大学医療センター佐倉病院 整形外科

教授 中川 晃一

「病診連携に関するアンケート調査結果報告  
—診療所医師より見て」

天本クリニック

院長 天本 安一

「看護職から見た医療連携」

東邦大学医療センター佐倉病院 看護部

副看護部長 前田 富士子

##### ●講演2 『学術講演』

「日本人における骨粗鬆症の実態と治療の進歩」

東邦大学医療センター佐倉病院  
糖尿病・内分泌・代謝センター

教授 龍野 一郎

「怖いめまい・怖くないめまい」

東邦大学医療センター佐倉病院 耳鼻咽喉科

教授 山本 昌彦

#### 第2部 懇親会 午後7時15分～

## 呼吸器内科

### 「紹介患者事前診療予約制」導入のご案内

このたび当院では、呼吸器内科の「紹介患者事前診療予約制」を導入することといたしました。従来、当院では初診紹介患者の事前診療予約は行っていませんでしたが、診療までの待ち時間短縮と診療の質の向上のために、呼吸器内科の「紹介患者事前診療予約制」を導入することといたしましたので、ご案内させていただきます。

なお、その他の診療科につきましても、今後導入に向け準備をすすめてまいりますので、ご理解ご協力の程、何卒よろしくようお願い申し上げます。

### 予約手順：

- ①紹介元医療機関から予約のお電話をお願いします
  - 患者さんのカナ氏名・生年月日・電話番号をお伺いします
  - 患者さんの受診希望日などございましたら可能な範囲で調整します
- ②当院より予約確認書（患者控・紹介元医療機関控）をFAXします
  - ※原則、予約の電話を頂戴してから20分以内
- ③患者さんに、当院からお送りした予約確認書（患者控）と、紹介状などの書類をお渡しく下さい

### 受付時間：

平日 8:30～16:30、土曜日 8:30～13:00  
※休診日除く

### 連絡先：

医療連携室 043-462-8875 ※事前予約専用

## 市民公開講座



### 『もの忘れ(認知症)と共に歩む「診断と治療」』



去る11月26日、当院7階講堂において認知症をテーマに市民公開講座を開催し、175名の方にお越し頂きました。認知症は脳の障害とも言われますが、早期発見と早期治療、適切なケア介入により、住み慣れた地域においてその人らしさや尊厳を保った生活を目指せます。

今回は、神経内科の榊原隆次医師・岸雅彦医師、メンタルヘルスクリニックの砂川裕之医師、脳神経外科の長尾建樹医師、薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカーが集り、それぞれの専門的な見解についての講義を展開いたしました。各診療科の医師からは、認知症治療の実際、周辺症状への対処方法、外科的治療について説明し、リハビリスタッフからは運動療法やコミュニケーションに関するお話をいたしました。また、薬剤師からは服薬管理、看護師から認知症の方への働きかけの具体的なアドバイス、臨床心理士やソーシャルワーカーから心理的理解や介護保険等の地域連携ネットワークについてお話し、大変有意義で盛りだくさんの内容となりました。



### 『知っておきたい加齢に伴う眼の病気』



昨年12月24日、眼科より『知っておきたい加齢に伴う眼の病気』をテーマに市民公開講座を開催しました。当日は138の方が参加し、熱心に講座を聞いてくださいました。

今回の講座は、3部構成となっており、第1部では金井秀仁先生より「加齢性黄斑変性症」を、第2部では産賀真先生より「白内障」、第3部では吉田いづみ先生より「緑内障」についてのお話がありました。

“眼”といえば、聴覚・視覚・味覚・触覚・嗅覚といった人間の五感の一つであり、私達の日常生活には無くてはならない身体の機能です。また、今回の講座のテーマにもある、“加齢”は誰もがさけては通れない事柄であり、さらに現代社会では、“アンチエイジング”などといわれる程、話題となっている事なのではないでしょうか。

「白内障」は、自分の身近な知人や家族が「白内障」になったなど、耳にすることもありますが、「加齢性黄斑変性症」・「緑内障」は、普段耳にすることはあまりないのではないのでしょうか。そのため、多くの市民の方々が興味・関心をもち公開講座に望んでいたのではと思います。今回の講座では、これら3つの病気について、症状や原因・治療方法などについて、図表を使いながら詳しく説明させて頂きました。

この機会より、大切な“眼”を守るためにも、日頃の眼の酷使に気をつけたり、定期的な検診を始めてみようかと思った方々も沢山いらっしゃったのではないのでしょうか。

## 市民公開講座スケジュール

今後とも、当院では市民公開講座にて皆様にお役に立つ医療情報を積極的に提供いたします。

### 〈2012年の市民公開講座 予定〉

- 1 / 28 (土) 「糖尿病の予防と治療」(糖尿病内分泌代謝センター、形成外科)
- 2 / 25 (土) 「めまいを起こさないためには…」(耳鼻咽喉科)
- 3 / 24 (土) 「带状疱疹」(皮膚科、麻酔科)
- 4 / 7 (土) 「歩行障害と共に歩む「診断と治療」」(神経内科、脳神経外科、整形外科)
- 5 / 26 (土) 「肥満」(糖尿病内分泌代謝センター)
- 6 / 23 (土) 「心不全」(循環器センター)
- 7 / 28 (土) 「地域で考えるケアと治療」(神経内科、脳神経外科、整形外科)

入場無料  
申込不要  
200席